

令和6年度  
森林・山村多面的機能発揮対策交付金  
申請に係る手引き

令和6年4月

千葉県里山林保全整備推進地域協議会

## 継続申請団体における注意事項

### <申請書作成について>

- 1 現在の活動計画（3カ年計画）の2年目又は3年目として関係書類を作成する。  
なお、タイプを変更した場合はこの限りではない。
- 2 以下の項目の全て対応した場合は、申請書チェックリストの備考欄に\*のある書類については、提出を省略できる。

### <活動計画書>

- 3 活動計画書はエクセルファイルの様式を使用することが望ましい。
- 4 モニタリングについて、1年目に具体的な方法を記載していなかった場合は、具体的となった内容に修正すること。
- 5 活動計画書「6.年度別スケジュール」は、過年度欄に実績（活動面積・活動内容、購入資機材）を記入し、今年度以降の活動面積等は基本的には修正しない。安全研修等その他の記載内容は、令和5年度の実態を踏まえて適宜修正する。

### <採択申請書>

- 6 採択申請書はエクセルファイルの様式を使用することが特に望ましい。
- 7 採択申請額については、国、千葉県、市町村交付金について、別紙「千葉県森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付単価表」を参考に記載すること。  
交付金単価部分に不備があった場合は、すべて再提出となるので注意のこと。特に今年度から交付金を計上する市町があるので、確認すること。
- 8 資機材購入については、現行活動計画書に記載された資機材のみを基本的に対象とし、令和5年度購入希望の場合は、計画書を修正記載のこと。  
また、申請時点の実態を記載する「活動組織の安全装備の現状と購入予定」との整合性を図るとともに、資機材希望表を必ず提出すること。  
特に、今年度は、昨年度よりもさらに予算規模が縮小しており、各団体に配分される資機材費は極めて厳しい状況であることをご理解ください。

### <活動面積について>

- 9 面積は単位をhaとし、すべて小数点第1位とする（小数点第2位以下切り捨て）。
- 10 継続箇所における活動区域の追加は望ましくない。追加申請を希望する場合は、申請に先立ち、協議会事務局と現地確認等のうえ、その必要性を協議すること。  
ただし、現行活動計画書に記載のある面積増（年度による面積の変更）は除く。

### <その他>

- 11 位置図、活動計画図、写真等については、この手引きの記載例等を参照して、必要に応じて適宜修正する。特段の修正がない場合は、そのまま提出する、
- 12 登記簿謄本の写しには、1枚ずつ、表面左上に1から順に数字を記入すること。
- 13 今年度から、環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシートを提出すること。

## 新規申請団体における注意事項

### <現地確認について>

- 1 申請に先立ち、事務局による現地の概要確認を行うので、未だ現地確認を行っていない場合は、早めに事務局と日程調整を行うこと。

### <申請書作成について>

- 2 令和6～8年度の3カ年計画の1年目として関係書類を作成する。
- 3 チェックリストに記載のある書類をすべて提出のこと。但し資機材を購入しない場合は、当該書類は不要である。
- 4 チェックリストの担当者の連絡先は、協議会事務局から様々な連絡を行うので、確実に連絡が取れる（普段から使用している）ものを記載すること。また、記載したメールアドレスは、今後、必ず定期的にチェックすること。また、事務局から携帯電話に入電があった場合、可能であれば受電すること。また受電できない場合、必ず返電すること。

### <活動計画書>

- 5 活動計画書はエクセルファイルの様式を使用することが望ましい。
- 6 活動計画書に記載する3年間の活動内容を途中変更することは望ましくなく、変更の際にはその必要性について再度の審査等が必要となることを踏まえ、活動組織の実態に即した事業内容を記載する。但し、当初計画で年度ごとに異なった活動面積とすることは可能である。

記載内容の実現可能性が低いとみなされた場合は、再提出となるので留意のこと。

- 7 活動計画書の取組概要はエリアごとに記載すること。  
エリアとは、活動区域全体を森の状況（樹種（針葉樹林、広葉樹林、混交林、竹林など）、林齢（若い、古いなど）、地形など）から区分したもの。森の状況により整備する目標が異なってくるので、後述するモニタリングの方法が異なる場合がある。エリアごとに、写真管理なども必要となってくるため、エリア区分はあまり細かくしないことが重要である。
- 8 安全研修会は毎年1回実施するものとし、その実施内容を検討のうえ具体的に記載のこと。なお、この安全研修会の講師は経験豊富な会員とすることも可能。
- 9 モニタリングはこの活動で目指す森林の状況を標準的に確認するものであるもので、活動により目指す森林とそれを確認する方法を簡単に記載すること。  
なお、モニタリングの具体的な方法は事務局と現地で決定するので、未だ決定していない場合は、「現地調査のうえ決定する。」と記載すること。

<採択申請書>

- 10 採択申請書はエクセルファイルの様式を使用することが望ましい。
- 11 採択申請額については、国、千葉県、市町村交付金について、別紙「千葉県森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付単価表」を参考に記載すること。
- 12 資機材については、原則として初年度に購入すること。

また、申請時点の実態を記載する「活動組織の安全装備の現状と購入予定」との整合性を図るとともに、**資機材希望表を必ず提出すること。**

特に、今年度は、各団体に配分される資機材費は厳しい状況であることをご理解ください。

<その他>

- 13 位置図、活動計画図、写真等については、この手引きの記載例を参照に関連性を十分に確保のこと。
- 14 登記簿謄本の写しには、1枚ずつ、表面左上に1から順に数字を記入すること。

<タイプ区分及び面積について>

- 15 **里山林保全タイプと竹林整備タイプの区分は、原則として事務局と事前協議のこと。**
- 16 申請面積は単位を ha とし、すべて小数点第1位とする（**小数点第2位以下切り捨て**）。

<協定期間について>

- 17 森林所有者と結ぶ協定書の期間は、**令和6年4月～令和9年3月**を内包すること。  
不足分を後日結ぶことは認められない。

## 令和6年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金採択申請に係わるチェックリスト

### 1 活動組織の連絡先等

活動組織の名称		今年はエクセルファイルに修正 チェック欄はマウスを クリックすればOK	
代表者の肩書			
代表者の氏名			
事務所所在地 [活動計画書の2と一致]			

担当者の連絡先(地域協議会事務局から電話、メールがあります。また郵便物が届くこともあります。)

住所	〒		
肩書・氏名	肩書:		氏名:
電話・FAX	電話:		FAX:
携帯電話番号			
メールアドレス			

### 2 提出書類

番号	項目	チェック欄	
		提出	備考
①	提出書類チェックリスト(申請添付様式1)	<input type="checkbox"/>	
②	活動組織の規約	<input type="checkbox"/>	※1
③	活動組織参加同意書	<input type="checkbox"/>	
④	交付金実施協定書	<input type="checkbox"/>	※1
⑤	地番一覧表	<input type="checkbox"/>	
⑥	対象森林の所有者を証明できる資料(登記簿謄本等)の写し	<input type="checkbox"/>	※1
⑦	位置図(道路地図、ネット地図等)	<input type="checkbox"/>	
⑧	活動計画図(「活動計画図の記載例、活動計画図・写真について、申請に係わる手引き」を参照)	<input type="checkbox"/>	
⑨	対象森林の現況がわかる写真(「活動計画図・写真について、申請に係わる手引き」を参照)	<input type="checkbox"/>	
⑩	活動計画図書	<input type="checkbox"/>	
	-1 安全講習会の実施内容(予定及び実績)	<input type="checkbox"/>	
	-2 傷害保険の契約内容(予定及び実績)	<input type="checkbox"/>	
⑪	採択申請書	<input type="checkbox"/>	
⑫	資機材購入理由書	<input type="checkbox"/>	※2
⑬	活動組織の安全装備と購入予定	<input type="checkbox"/>	
⑭	資機材希望表	<input type="checkbox"/>	※2
⑮	安全の規範(個別規範:林業)事業者向けチェックシート	<input type="checkbox"/>	
⑯	環境負荷低減のクロスコンプライアンス チェックシート	<input type="checkbox"/>	
⑰	預金通帳コピー(活動団体名義、支店名、口座番号が確認できるページ)	<input type="checkbox"/>	

※1:継続申請で変更がない場合は省略可      ※2:希望がない場合は省略可

# 千葉県森林・山村多面的機能発揮対策交付金交付単価表

(令和6年4月1日時点)

区分	交付単価（上限）		
	国	県	一部市町
① 活動推進費	1 団体当たり 112,500 円 (初年度のみ)	1 団体当たり 18,750 円 (初年度のみ)	1 団体当たり 18,750 円 (初年度のみ)
② 地域環境保全タイプ (里山林保全)	1 年目 120,000 円/ha 2 年目 115,000 円/ha 3 年目 110,000 円/ha	1 年目 20,000 円/ha 2 年目 19,150 円/ha 3 年目 18,300 円/ha	上乗せ負担があるか 否かとその単価については、申請書を提出する市町の担当課にご確認ください。
③ 地域環境保全タイプ (侵入竹除去・竹林整備)	1 年目 285,000 円/ha 2 年目 265,000 円/ha 3 年目 245,000 円/ha	1 年目 47,500 円/ha 2 年目 44,150 円/ha 3 年目 40,800 円/ha	
④ 森林資源利用タイプ	1 年目 120,000 円/ha 2 年目 115,000 円/ha 3 年目 110,000 円/ha	1 年目 20,000 円/ha 2 年目 19,150 円/ha 3 年目 18,300 円/ha	
⑤ 森林機能強化タイプ	800 円/m	100 円/m	
⑥ 関係人口創出・維持タイプ	1 団体あたり 50,000 円	1 団体あたり 8,300 円	
⑦ 資機材・施設の整備	経費の 1/2 以内 一部の経費は 1/3 以内	対象外	

注1：交付最低面積は 0.1ha、また、交付最低延長は 1m

注2：②・③・④は、申請者の活動取組みの何年目かによって交付単価が変わります。

注3：本交付金には国・県のほか、一部市町村も、当該市町村内の活動組織に交付を行います。市町の交付の有無及び単価→当該市町担当課に問い合わせてください。

なお、県と市町の未定の単価が同額に設定されるとは限らないので、注意してください。

次年度の予算は7～8月頃から始まります。3年目の団体のうち、タイプ変更、場所変更、中山間地域での継続により、本交付金事業の継続を希望する団体は、早めに市町に意思表示をすることが望ましい。

## 対象森林の現況写真の撮影について

1：エリアごとに、以下の写真を撮影すること。

森林の概要がわかる写真 外部から1枚 内部から1枚

タイプ区分が判断できる写真 2枚以上

2：タイプ区分の判断写真は以下の項目に留意する。

(1) 地域環境保全（里山林保全）タイプ（スギ・ヒノキ林、雑木林、その他）

概ね樹種ごとの生育状況、混み具合、林床植生の繁茂具合などを撮影する。

(2) 地域環境保全（侵入竹除去）タイプ（竹が他の樹種に侵入している）

竹林が他の樹種からなる森林に侵入し、圧迫している状況を撮影する。

アズマネザサ（しの竹）に関しては、著しく繁茂している状況が必要となる。

(3) 地域環境保全（竹林整備）タイプ（過密で荒廃した竹林）

竹林が過密になり荒廃している状況を撮影する。

(4) 森林資源利用タイプ（人工林、雑木林）

一定の蓄積があり、伐採搬出できる状況であることを判断できる状況を撮影する。

(5) 森林機能強化（作業道）

作業道を入れる箇所を、50mに1か所を目安とし、活動が必要な状況を撮影する。

(6) 関係人口創出・維持タイプ

申請内容を説明、補完する写真とする（活動予定の森林など）。

3：写真撮影位置

撮影位置を記入した図を作成する。

## 位置図・活動計画図の作成方法について

### <位置図>

縮尺：1/2万5千～1/5万地形図を原則とするが、縮尺が合致すれば道路地図、ネット地図等のコピーで可とする。

記載内容：近隣の主要国道、鉄道、学校など目標となるものを含む範囲とし、併せて方位、縮尺、申請箇所などを明記する。

### <活動計画図>

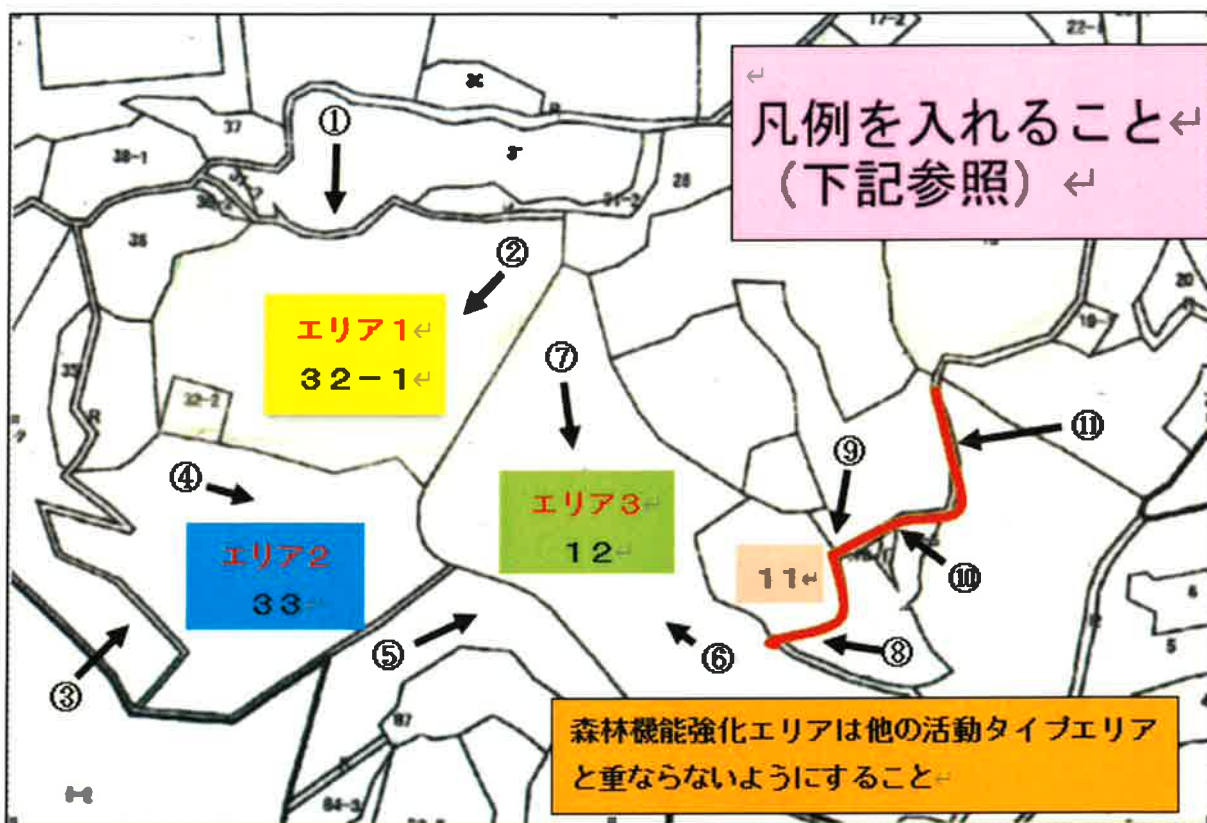
地番記載のある図面を利用して、事業実施箇所のエリア別、活動タイプ別、年度別の関係がわかるよう調整し、必ず凡例を記載すること。（記載例を参照）

森林機能強化タイプにおいては、改修を実施する路網や鳥獣防止柵を図示すること。

上記内容が明確に記載できる縮尺とする。面積測定用の図面と縮尺が異なってもかまわない。



<活動計画図（記載例）>



森林機能強化は11、13、14-1、14-2の4筆

縮尺 1/2500

「①→」から「⑪→」は写真撮影位置と番号

<凡例（記載例）>

エリア	地番	面積・延長	実施する活動タイプ			長期にわたり手入れがされていないと考えられる里山林
			令和5年度	令和6年度	令和7年度	
エリア1	32-1	0.3ha	里山林保全	里山林保全	里山林保全	○
エリア2	33	0.3ha	竹林整備	竹林整備	竹林整備	○
エリア3	12	0.5ha		森林資源利用	森林資源利用	
作業道	11 他	200m	森林機能強化			

(注)

1：令和5年度から開始する箇所である。

2：エリア1は里山林保全で、エリア2は竹林整備で3年間実施する活動計画となっている。

3：エリア3はアクセスが困難な状況であるため、令和5年に作業道を整備した後、令和6年度から森林資源利用を2年間実施する予定となっている。



## 地番一覧表

「千葉県××市〇△字池の脇の3筆の森林を申請する場合」

申請団体: 〇△の森を育てる会

申請箇所: 千葉県××市

3年間の活動計画における交付メニュー(注4)

登記簿 謄本 番号	エリア番号	大字・字	地番	公簿面積等 (m <sup>2</sup> )	活動面積 (m <sup>2</sup> )	測量の種類 (注3)	所有者氏名	所有者住所	令和6年度	令和7年度	令和8年度	備考
1	1	〇△字池の脇	32-1	3,450.00	3,250.00	ア	〇〇 〇〇	××市〇△～	里山	里山	里山	
2	1	〇△字池の脇	34	752.00	752.00	ア	〇〇 〇〇	××市〇△～	里山	里山	里山	
3	2	〇△字池の脇	33	3,350.00	3,100.00	イ	〇〇 〇〇	××市〇△～	竹林	竹林	竹林	
4	3	〇△字池の脇	12	5,400.00	5,100.00	ア	〇□ ×△	××市〇△～	—	資源	資源	
5	作業道	〇△字池の脇	9	—	—	—	〇□ ×△	××市〇△～	森強			
6	作業道	〇△字池の脇	10-4	—	—	—	〇△▽	××市〇△～	森強			
7	作業道	△字池の脇	10-5	—	—	—	〇〇	××市〇△～	森強			
8	作業道	〇△字池の脇	11	—	—	—	〇〇 ×	××市〇△～	森強			
計				12,952.00	12,202.00							

登記簿謄本の写しに、1枚ずつ1から順に番号を振り、地番に対応する写しの番号を入力する

別紙「活動計画図」に対応するエリア番号を入力する

登記簿謄本等に記載されている、市町村名よりあとの部分を入力すること(一般的な住所とは異なるので注

森林機能強化タイプでは「公簿面積」「活動面

実際の面積は公簿面積より増えることが多い(市町村で地籍調査を実施済の場合を除く)。隣接森林との境界が正確にわからない場合は、境界付近は活動エリアから除くことがある

行が足りないときは追加することができる

注1:面積の単位は㎡とし、小数点以下の数字があっても四捨五入せずそのまま記載す注4

注2:測量の種類は、以下の区分によるものとする。

注3

項目
ア 登記面積を用いた。
イ 森林計画図と森林簿を用いた。
ウ 現地を実測した。
エ その他(備考欄に詳細記入)

項目	
地域環境保全体タイプ(里山林保全)	→ 「里山」
地域環境保全体タイプ(侵入竹除去・竹林整備)	→ 「竹林」
森林資源利用タイプ	→ 「資源」
森林機能強化タイプ	→ 「森強」

# 活 動 計 画 書

## 記 載 例

令和6年5月1日策定

○△の森を育てる会

## 森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動計画書

### 1. 組織名

○△の森を育てる会

### 2. 所在地

千葉県市原市△△（団体の所在地、もしくは代表者の住所）

### 3. 地区の概要、取組の背景・取組の概要、地元の自治体、自治会、集落等のニーズに対応するなど地域の活性化への寄与等

活動するエリアはモウソウチク林、雑木林、スギ林でどれもかつては利用されていたが、今は放置されて現地まで行く道も荒廃している。一方、室町時代に砦があったといわれており、地域のシンボリックな場所でもある。そこで、整備を進めて地域の森として蘇らせようという地元有志とその友人が集まり令和4年に活動組織を立ち上げた。

### 4. 取組概要

○エリア1（地域環境保全タイプ・里山林）

危険木処理とあわせて林床整備を行い、見通しのよい良好な景観の維持を行う。

- ・倒木の処理及び藪の刈払い（1年目）
- ・不良木の整理、藪の刈り払い（2年目～3年目）

○エリア2（地域環境保全タイプ・竹林整備）

本数管理を行いタケノコが発生するモウソウチク林に整備する。

- ・枯れ竹、折れ竹の整理、林内作業路の整備（1年目）
- ・立竹の伐採、集積・整理（2～3年目）

○エリア3（森林資源利用タイプ）

間伐適期のスギ林については10～20%程度の間伐を行い、伐採木は適宜搬出する。搬出した材は薪としての利用等を予定している。

### 5. 構成員の概要

※構成員の居住地（どのような地域から参加しているか）、職種、経歴、所属団体等、構成員の多様性がわかるように記載すること。

元小学校教員、農家、コンビニ経営、主婦、会社員

※ 様式第10号別紙の参加同意書（構成員一覧表）に代わるものではない。

※ 構成員の具体的氏名を入れないこと。

6. 年度別スケジュール

取組概要	令和6年度		令和7年度		令和8年度	
1. 活動推進費	森林調査、作業計画の相談、準備等					
2. 実践活動						
A-1地域環境保全タイプ	倒木片付け、藪の刈払い	0.3 ha	不良木の伐採、片付け、藪の刈払い	0.3 ha	危険木の伐採、片付け、藪の刈払い	0.3 ha
A-2地域環境保全タイプ (侵入竹除去、竹林整備)	枯れ竹、折れ竹の整理、林内作業路整備	0.3 ha	立竹の伐採、集積・整理	0.3 ha	立竹の伐採、集積・整理	0.3 ha
B 森林資源利用タイプ		ha	スギの間伐、林内集積	0.5 ha	スギの間伐、搬出	0.5 ha
C 森林機能強化タイプ		ha		ha		ha
	200	m		m		m
2-1. 間伐等（除伐・枝打ちを含む）実施面積		ha		ha		ha
2-2. 活動を始める時点で長期にわたり手入れをされていなかったと考えられる里山林を整備する面積	0.6	ha		ha		ha
D 関係人口創出・維持タイプ	参加団体の受け入れ準備と作業補助		参加団体の受け入れ準備と作業補助		参加団体の受け入れ準備と作業補助	
3. 資機材・施設の整備等	チェーンソー、下刈機、ロープウィンチ		薪割り機			

※1 延長には森林調査・見回りを除く。

※2 2のCの森林機能強化タイプの森林面積については、スケジュールの期間内に地域環境保全タイプ又は森林資源利用タイプにより森林整備を実施する面積を記載する。

※3 2-2については、2年目以降はその前年度までの活動により該当する里山林の整備を実施している場合はその里山林の面積を除外し、その年度に新たに該当する里山林の整備を実施する面積を記載する。

※4 2のDの関係人口創出・維持タイプについては、年度毎の実施内容を記載する。

7. 活動の目標と活動結果を測定するためのモニタリング調査方法（地域環境保全タイプ及び森林資源利用タイプについて記載）

タイプ名	目標	モニタリング調査方法
地域環境保全タイプ エリア1	山林内の見通しを良く明るくし、人が入り管理しやすい環境を作り、森林の育成も行う	山林内の見通しを良くする。見通し伐採本数
地域環境保全タイプ エリア2	伐竹を行い適正なモウソウチク林に整備する。	見通し、立竹密度
森林資源利用タイプ	利用のためにスギ丸太を生産する	スギの伐採利用材積

（注）目標の設定及びモニタリング調査方法の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。

8. 年度別に実施する安全講習等の名称及び内容

年 度	講習の名称	講習の内容
令和6年度	チェーンソー安全講習	チェーンソーの取扱い方法の講習
令和7年度	ロープウィンチ安全講習	伐採、搬出時の安全な利用方法の講習
令和8年度	危険木伐採技術講習	かかり木等危険木の伐木方法の講習

(注) 安全講習等は、対象森林内で実施するものを記載すること。

9. 安全のために装備する物品及び傷害保険の名称

- ・ 会員及び一般参加者には例外なくヘルメットを着用させる。
- ・ チェンソーを操作するものは、ゴーグル、防護具(チャップス)などを着用する。
- ・ 活動の会員は、スポーツ安全保険に加入する。

10. 4年目以降の活動(森林管理)計画

地域内外の人が集えるようツリーハウスの製作や、薪・原木椎茸の生産販売を行い団体の認知度と収益を上げ活動が継続できるよう仕組みづくりを行う。

11. 計画図(協定の対象としている区域の図面)

取組の実施箇所の森林計画図を添付すること。森林計画図がない場合は、対象森林の面積が分かる縮尺5,000分の1以上の図面を添付すること。添付した図面に、計画期間中の各タイプの活動内容及び森林経営計画の策定の有無を図示すること。また、森林機能強化タイプにおいては、改修等を実施する路網や鳥獣被害防止柵を図示すること。

12. 持続性向上に向けた取組

SNS等を通じた会員、寄付金の募集。薪・椎茸原木として利用することで収益を上げていく。

※ 活動する人材の育成や確保、活動経費の確保など、活動組織が本活動計画終了後も活動を継続していくために行おうとする取り組みについて記載する。

(1) 写真

取組の実施箇所に長期にわたり手入れをしていなかったと考えられる里山林がある場合はその写真を添付すること。

(2) 収入

会費、林産物収入など森林・山村多面的機能発揮対策交付金以外の収入を記載すること。

会費、寄付金を集め、令和7年度から薪・椎茸原木の生産販売活動を行なっていく。

(3) 委託

取組を委託する場合は、次を記載すること。

活動計画における取組についての委託

- ・委託機関名
- ・連絡先（電話番号等）
- ・委託時期
- ・委託内容（委託する区域の林小班、委託業務の内容（面積、作業の内容）等）
- ・委託金額

## 安全講習会の実施予定・実績

項目	申請時の予定（申請に添付）	実績（事業終了後）	備考
実施日	令和6年10月15日	令和 年 月 日	
時間	9時30分～12時	時～時	
実施場所	〇〇地区公民館		
テーマ	作業の基礎講習会		
参加人員	11人（全員）		
講師氏名	山ノ内 有希		
講師資格	アドバイザー 造林作業指揮者等教育等		
実施内容	作業実施方法 機械取り扱い上の留意点 林業災害発生の事例紹介 ～原因と改善～ 緊急時の対応方法		

注1：安全講習会は原則として全員参加が必要です。

会員の都合等で複数回実施（予定）の場合は、別葉に記載のこと。

2：作業開始前の安全講話、安全確認作業等を安全講習会とすることはできません。

3：講師は、外部講師、内部講師いずれも可です。

4：「講師資格」が特に無い場合、代表、副代表などの会の役職があれば記載してください。

5：実施内容は、できるだけ具体的に書いてください。

別途報告書等を作成の場合は、「詳細は報告書のとおり」と記載してください。



## 傷害保険の契約内容（予定・実績）（チェーンソー利用）

項目	申請時の予定（申請に添付）	実績（事業終了後）	備考
保険名称	スポーツ安全保険		
保険会社	東京海上日動火災保険		
保険期間	R6.6.11～R7.6.10		
動力機対象の有無	有		
保険対象人数	1,200円/人・年		
保障内容	死亡 600万円 入院 1,800円 事故日から180日以内 通院 1,000円 事故日から180日以内 30日程度 その他は別添関係書類のと おり		

1：現在掛けている保険はその内容を、今後掛ける予定の場合はその内容を記載してください。

2：通常の活動と、チェーンソー等を利用した活動で保険を分けている場合は、2葉にわけて記載してください。

3：保険期間、保険人数等を正確に記載してください。

4：保障内容は、1死亡の場合、2入院の場合、3通院の場合に分けて記載してください。

上記1～3以外の保障については「別添関係書類のとおり」とすることができます。

## 傷害保険の契約内容（予定・実績）（チェーンソー利用者以外）

項目	申請時の予定（申請に添付）	実績（事業終了後）	備考
保険名称	ボランティア保険		
保険会社	三井住友海上火災保険		
保険期間	R4. 4. 11 ~ R5. 4. 10		
動力機対象の有無	有		
保険対象人数	500円/人・年		
保障内容	死亡 230万円 入院 8,000円 通院 5,000円 その他は別添関係書類のとおり		

- 1：現在掛けている保険はその内容を、今後掛ける予定の場合はその内容を記載してください。
  - 2：通常の活動と、チェーンソー等を利用した活動で保険を分けている場合は、2葉にわけて記載してください。
  - 3：保険期間、保険人数等を正確に記載してください。
  - 4：保障内容は、1死亡の場合、2入院の場合、3通院の場合に分けて記載してください。
- 上記1～3以外の保障については「別添関係書類のとおり」とすることができます。

令和6年5月1日

千葉県里山林保全整備推進地域協議会  
会長 佐藤 孝之 殿

〇△の森を育てる会  
代表 〇〇 〇〇

令和6年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る採択申請書

森林・山村多面的機能発揮対策実施要領（平成25年5月16日25林整森第74号林野庁長官通知）別紙3の第5の4（1）に基づき、下記のとおり森林・山村多面的機能発揮対策交付金の採択を申請する。

記

1. 活動組織名 〇△の森を育てる会
2. 協定の対象となる森林の位置 市原市〇△字池の脇12、32-1、33
3. 担当者名・電話番号 海賀 好代

（連絡がとれる担当者及び電話番号を記載）  
※ 代表（会長）と異なってもかまわない

4. 森林・山村多面的機能発揮対策交付金

取組メニュー	交付単価等	森林面積等	交付金額	都道府県の支援額	市町村の支援額	計
活動推進費	112,500円	初年度の み	円 112,500	円 18,750	円 18,750	円 150,000
		ha	円	円	円	円
地域環境保全タイプ (里山林保全)	120,000円/ha 115,000円/ha 110,000円/ha	0.3	36,000 0 0	6,000	6,000	48,000 0 0
地域環境保全タイプ (侵入竹除去・竹林整備)	285,000円/ha 265,000円/ha 245,000円/ha	0.3	85,500 0 0	14,250	14,250	114,000 0 0
		ha	円	円	円	円
森林資源利用タイプ	120,000円/ha 115,000円/ha 110,000円/ha		0 0 0			0 0 0
森林機能強化タイプ	800円/m	m	円 160,000	円 20,000	円 20,000	円 200,000
関係人口創出・維持タイプ	50,000円/年		円 50,000	円 8,300	円 8,300	円 66,600
小計			円 444,000	円 67,300	円 67,300	円 578,600
資機材・施設の整備等	1/2 以内	円	円 246,750	円	円	円 246,750
資機材・施設の整備等 (林内作業車、薪割り機、薪ストーブ又は炭焼き小屋等)	1/3 以内	円	円 66,666	円	円	円
計			円 757,416	円 67,300	円 67,300	円 892,016
間伐等(除伐、枝打ちを含む。)の実施面積		ha				
当該年度に長期にわたり手入れをしていなかったと考えられる里山林を整備する面積		ha	0.6			

活動推進費を申請する場合の金額

国	県	市町
112,500	18,750	18,750

20000  
19150  
18300  
47500  
44150  
40800  
20000  
19150  
18300

関係人口創出・維持タイプを申請する場合の金額

国	県	市町
50,000	8,300	8,300

資機材

	金額	申請額
チェーンソー	53,500	26,750
ロープウィンチ	400,000	200,000
刈払い機	40,000	20,000
		0
		0
		0
		0
	493,500	246,750

資機材(1/3補助)

	金額	申請額
薪割り機	200,000	66,666
		0
計		66,666

初年度の地域環境保全タイプの面積

(注1) 面積は0.1ha、延長はm単位で記入。

(注2) 当該年度に長期にわたり手入れをしなかったと考えられる里山林を整備する面積は、活動期間内の前年度までに該当する里山林の整備を実施した場合は、その森林の面積を除外し、当該年度に新たに里山林の整備を実施する面積を記載すること。

(注3) 都道府県の支援額、市町村の支援額及び計については、申請時に都道府県や市町村から予定額を聞いている場合等に記載すること。

(注4) 地域環境保全タイプ及び森林資源利用タイプの交付単価は、活動計画の経過年度によって異なるので留意すること。

5. 事業費(活動推進費+各タイプ計+資機材・施設の整備(購入額))  
1,072,100 円

## 6. 月別スケジュール

取組内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 活動推進費				←————→								
2. 実践活動												
A-1 地域環境保全タイプ (里山林保全)							←————→					
A-2 地域環境保全タイプ (侵入竹除去、竹林整備)							←————→					
B 森林資源利用タイプ												
C 森林機能強化タイプ						←————→						
D 関係人口創出・維持タイプ							←————→					
3. 資機材・施設の整備等				←————→								

## 7. 安全講習等の名称及び内容

講習の名称	講習の内容	実施月
作業の基礎講習会	チェーンソーの取扱いの他、作業の実施方法、森林作業の留意点、緊急時の対応方法などを学ぶ	9 月
		月

## 8. 関係人口創出・維持タイプの相手先及び活動内容

### 【地域外関係者の相手先名】

御園町（佐倉市御園町）町内会の有志

### 【活動内容】

竹の伐採、枝払い、片付け作業

（注）地域外関係者との現地確認や活動内容の調整を必ず行うこと。

### <施行注意>

作業安全のための規範（個別規範：林業）事業者向けチェックシート、活動計画書、協定及び活動組織の運営に関する規約等を添付するものとする。

記載事項及び添付資料が既に提出している資料の内容と重複する場合には、その重複する部分については省略できることとし、省略するにあたっては、提出済の資料の名称その他資料の特定に必要な情報を記載の上、当該資料と同じ旨を記載することとする。

## 資機材購入内訳書

活動組織の名称	
---------	--

### 1 購入資機材一覧

番号	資機材の名称	規格等	単価	数量	購入金額(税込) (注2、注3)			購入理由(注4)	備考(注3)
					令和6年度	令和7年度	令和8年度		
1	電動チェーンソー	25cm	53,500	1	53,500			竹林の伐採専用活用	
2	ポータブルロープウィンチ	40cc	400,000	1	400,000			作業道での支障木除去 スギ林で伐採及び丸太の搬出	
3	簡易トイレ	汲み取り式	160,000	1	160,000			近くにトイレが無い	
4	チェーンソー	35cc、30cm	65,500	1		65,500		伐採木が中径木のため	
5	刈払機	肩掛け式 24cc	52,000	1		52,000		刈払い作業の効率化	
6	薪割機	エンジン式 最大30t	300,000	1		300,000		搬出した丸太から薪を作る	
<b>合計金額(税込)</b>					<b>613,500</b>	<b>471,500</b>			

(注1) 活動計画書に記載した3年間の購入予定の資機材を全て記載して下さい。欄が足りない場合は、適宜行を挿入して下さい。

(注2) 予め複数の者から見積書を求め、最も安い見積額を記載するとともに、その見積書とパンフレット(仕様分かる資料)の写しを添付して下さい。(ネット通販で購入する場合は、通販サイトのページを印刷して添付して下さい。)

(注3) 活動組織が消費税の課税事業者であって、購入資機材について消費税の確定申告を行う場合は、購入金額には消費税を含まない額を記載するとともに、備考欄に「消費税を含まない」と記載して下さい。

(注4) 交付金の対象になる資機材は、交付金の活動に必要な資機材だけです。当該資機材が交付金の活動に必要なことが分かるよう、その理由を記載して下さい。

### 2 資機材等購入にあたっての確認事項(当てはまるものに○を記入して下さい。)

確認項目	回答欄
① その資機材は、「交付金の使途」に該当していますか。⇒不明な場合は協議会までお問い合わせください。	はい ・ いいえ
② その資機材は、「交付金の活動」の実施に不可欠ですか。	はい ・ いいえ
③ その資機材の規格や数量等は、活動組織の規模及び作業内容等に対して妥当ですか。	はい ・ いいえ
④ その資機材は、交付金事業終了後も継続的に必要となりますか。	はい ・ いいえ
⑤ レンタルと比較して、購入した方が安上がりですか。	はい ・ いいえ

⑥採択された場合でも、実績報告において証拠書類等がない場合は対象経費とならないことを承知していますか。	はい ・ いいえ
⑦その資機材は、初年度に購入する予定ですか。	はい ・ いいえ

- 3 2の⑦で「いいえ」と回答した方は、資機材を初年度に購入しない理由を記載して下さい。  
(注) 事業効果を勘案し、資機材は原則として初年度に購入することとしています。

資機材の名称	購入予定年度	初年度に購入しない理由

- 4 購入とレンタルの比較結果 ※「レンタル料>購入額の2分の1」となる場合は購入可能です。

資機材の内容	レンタル料の場合			購入の場合		比較の結果 (A>C)	備考
	レンタル料の 単価	3年間の 稼働予定日数	3年間のレン タル料 (A)	購入単価 (B)	うち交付金の額 (C=B÷2)		
チェーンソー	4,200	40	168,000	72,000	36,000	適当	
ポータブルロープウ インチ	60,00	60	360,000	400,00	200,000	適当	
簡易トイレ	3,000	60	180,000	160,000	80,000	適当	
刈払機	4,700	40	188,000	52,000	27,000	適当	
薪割機	12,000	30	360,000	300,000	150,000	適当	

(注) この様式は、レンタルと購入を比較する場合の参考様式です。リースの場合や、レンタルであってもこの様式に拠りがたい場合は、任意の様式で比較結果を明らかにしてください。

(注) レンタル料の単価は、次表の単価を用いて下さい。備考欄に1泊2日と記載があるものを連続する2日間で使用する場合は、当該2日分の使用を1回として計算して下さい。2泊3日と記載があるものを、連続する3日間のうち2日又は3日使用する場合は、当該2日分又は3日分の使用を1回として計算して下さい。これ以外の単価を用いて計算する場合は、単価の根拠が分かる資料を添付して下さい。



資機材の内容	賃借料の単価	備考
刈払機	4,700 円	1 泊 2 日の単価。
チェーンソー	4,200 円	1 泊 2 日の単価。
薪割機	12,000 円	購入価格が 50 万円、27t 程度のもの。1 日の単価。
携帯型 GPS 機器	5,980 円	購入価格が 10 万円程度のもの。1 泊 2 日の単価。
電動ドリル	1,480 円	購入価格が 2 万円程度のもの。1 泊 2 日の単価。
チルホール (750kg)	5,550 円	2 泊 3 日の単価。



## 資機材希望表

活動組織名：

	品名	仕様等	金額(税込み)	購入理由
1	チェーンソー	バッテリー式 ガイドバー25cm	85,000	竹林エリアでの活動を効率的に進めるため、竹伐採専用のチェーンソーが必要
2	チルホール	牽引能力750kg	75,000	昨年度要望したが、事務局が指示する12月までに購入できなかったため
3	薪割り機	直径45cm、長さ60cmまで可能 エンジン式 油圧能力26t	298,000	今年度から森林資源利用タイプの活動を始めるが、伐採木を薪として販売するため
4	刈払い機	背負い式 26cc	45,000	斜面でのアズマネザサの伐採を安全に行うため、新たに背負い式刈払い機が必要
5	チェーンソー	エンジン式35cc ガイドバー35cm	53,000	現在使用しているものが4年経て劣化したため買い換える必要がある
6	刈払い機	肩掛け式 22cc	32,000	昨年女性会員3人が法定講習を受講し、今年から刈払い機を使って活動することを希望しているため
7	物置	幅1862.5×奥行1862.5×高さ2118.5mm	195,000	活動計画書で2年目の購入として記載 作業道具が増えてきたため
計			783,000	

※ 希望順に1記入すること(希望順位の高い資機材が採択されるとは限りません)

金額の根拠とカタログも添付して下さい

\* 農林水産業・食品産業の作業安全のための規範（個別規範：林業）

\* 事業者向け チェックシート

\* 令和3年2月26日

\* 林野庁

事業者名	
記入者 役職・氏名	
業種 (○を付ける。複数選択可)	素材生産／造林・保育／その他 ( )
雇用労働者の有無	有 / 無
記入日	令和 6 年 5 月 10日

現在の取組状況をご記入下さい。

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 -:該当しない
1	作業安全確保のために必要な対策を講じる	
1-(1)	人的対応力の向上	
1-(1)-①	作業事故防止に向けた方針を表明し、具体的な目標を設定する。	○
1-(1)-②	知識、経験等を踏まえて、安全対策の責任者や担当者を選任する。	○
1-(1)-③	作業安全に関する研修・教育等を受ける。また、作業安全に関する最新の知見や情報の幅広い収集に努める。	○
1-(1)-④	適切な技能や免許等が必要な業務には、有資格者を就かせる。	○
1-(1)-⑤	職場での朝礼や定期的な集会等により、作業の計画や安全意識を周知・徹底する。	○
1-(1)-⑥	安全対策の推進に向け、従事者の提案を促す。	△
1-(2)	作業安全のためのルールや手順の順守	
1-(2)-①	関係法令等を遵守する。	○

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 -:該当しない
1-(2)-②	高性能林業機械やチェーンソー等、資機材等の使用に当たっては、取扱説明書の確認等を通じて適切な使用方法を理解する。	△
1-(2)-③	作業に応じ、安全に配慮した服装や保護具等を着用する。	○
1-(2)-④	日常的な確認や健康診断、ストレスチェック等により、健康状態の管理を行う。	×
1-(2)-⑤	作業中に必要な休憩をとる。また、暑熱環境下では水分や塩分を摂取する。	△
1-(2)-⑥	作業安全対策に知見のある第三者等によるチェック及び指導を受ける。	×
1-(3)	資機材、設備等の安全性の確保	
1-(3)-①	燃料や薬剤など危険性・有害性のある資材は、適切に保管し、安全に取り扱う。	△
1-(3)-②	機械や刃物等の日常点検・整備・保管を適切に行う。	△
1-(3)-③	資機材、設備等を導入・更新する際には、可能な限り安全に配慮したものを選択する。	×
1-(4)	作業環境の改善	
1-(4)-①	職場や個人の状況に応じ、適切な作業分担を行う。また、日々の健康状態に応じて適切に分担を変更する。	○
1-(4)-②	高齢者を雇用する場合は、高齢者に配慮した作業環境の整備、作業管理を行う。	○
1-(4)-③	安全な作業手順、作業動作、機械・器具の使用方法を明文化又は可視化し、全ての従事者が見ることができるようにする。	△
1-(4)-④	現場の危険箇所を予め特定し、改善・整備や注意喚起を行う。	○
1-(4)-⑤	4S（整理・整頓・清潔・清掃）活動を行う。	×
1-(5)	事件事例やヒヤリ・ハット事例などの情報の分析と活用	

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 -:該当しない
1-(5)-①	行政等への報告義務のない軽微な負傷を含む事故事例やヒヤリ・ハット事例を積極的に収集・分析・共有し、再発防止策を講じるとともに危険予知能力を高める。	△
1-(5)-②	実施した作業安全対策の内容を記録する。	×
2	事故発生時に備える	
2-(1)	労災保険への加入等、補償措置の確保	
2-(1)-①	経営者や家族従事者を含めて、労災保険やその他の補償措置を講じる。	○
2-(2)	事故後の速やかな対応策、再発防止策の検討と実施	
2-(2)-①	事故が発生した場合の対応（救護・搬送、連絡、その後の調査、労基署への届出、再発防止策の策定等）の手順を明文化する。	△
2-(3)	事故時の事業継続のための備え	
2-(3)-①	事故により従事者が作業に従事ができなくなった場合等に事業が継続できるよう、あらかじめ方策を検討する。	△

環境負荷低減のクロスコンプライアンス チェックシート

	申請時 (します)	(1) 適正な施肥	報告時 (しました)
①	<input type="checkbox"/>	※種苗生産を行う場合(該当しない <input type="checkbox"/> ) 肥料の適正な保管	<input type="checkbox"/>
②	<input type="checkbox"/>	※種苗生産を行う場合(該当しない <input type="checkbox"/> ) 肥料の使用状況等の記録・保存に努める	<input type="checkbox"/>

	申請時 (します)	(5) 廃棄物の発生抑制、 適正な循環的な利用及び適正な処分	報告時 (しました)
⑧	<input type="checkbox"/>	廃棄物の削減に努め、適正に処理	<input type="checkbox"/>
⑨	<input type="checkbox"/>	未利用材の有効活用を検討	<input type="checkbox"/>

	申請時 (します)	(2) 適正な防除	報告時 (しました)
③	<input type="checkbox"/>	※農薬を使用する場合(該当しない <input type="checkbox"/> ) 農薬の適正な使用・保管	<input type="checkbox"/>
④	<input type="checkbox"/>	※農薬を使用する場合(該当しない <input type="checkbox"/> ) 農薬の使用状況等の記録・保存	<input type="checkbox"/>

	申請時 (します)	(6) 生物多様性への悪影響の防止	報告時 (しました)
⑩	<input type="checkbox"/>	生物多様性に配慮した事業実施(物資調達、施業等) に努める	<input type="checkbox"/>

	申請時 (します)	(3) エネルギーの節減	報告時 (しました)
⑤	<input type="checkbox"/>	林業機械や施設の電気・燃料の使用状況の記録・保存 に努める	<input type="checkbox"/>
⑥	<input type="checkbox"/>	省エネを意識し、不必要・非効率なエネルギー消費を しないように努める	<input type="checkbox"/>

	申請時 (します)	(7) 環境関係法令の遵守等	報告時 (しました)
⑪	<input type="checkbox"/>	みどりの食料システム戦略の理解	<input type="checkbox"/>
⑫	<input type="checkbox"/>	関係法令の遵守	<input type="checkbox"/>
⑬	<input type="checkbox"/>	林業機械等の装置・車両の適切な整備と管理の実施に 努める	<input type="checkbox"/>
⑭	<input type="checkbox"/>	正しい知識に基づく作業安全に努める	<input type="checkbox"/>

	申請時 (します)	(4) 悪臭及び害虫の発生防止	報告時 (しました)
⑦	<input type="checkbox"/>	悪臭・害虫の発生防止・低減に努める	<input type="checkbox"/>

(注1) 申請を行う際に本様式の「該当なし」欄又は「申請時」欄に☑を付し、報告の際は「報告時」欄に☑を付して提出してください。

(注2) 記載内容に「該当しない」場合には☐にチェックしてください。この場合、当該項目の申請時・報告時のチェックは不要です。